美濃地方で震度６想定、捜索と物資運搬

レベル3.5でドローン飛行

美濃市とロボッツが県内初

市防災連携訓練

訓練で飲料水を運搬する大型ドローン＝美濃市御手洗、御手洗グラウンド

ドローンの操縦士養成スクールの運営などを手がけるＲＯＢＯＺ（ロボッツ、名古屋市）は、美濃市と連携し、美濃市御手洗の御手洗グラウンドなどで、災害対策にドローンを活用する実証訓練を実施した。飛行時に補助者や看板の設置が不要となる新制度「レベル３・５」の飛行を県内で初めて行った。（高橋友基）

美濃市の防災連携訓練に合わせたもので、美濃地方で震度６の地震が発生し、神洞地区で山崩れで道路が寸断し、孤立した地区住民が人命救助と物資の支援を要請したとの想定で実施。インフラなどの被害状況の情報収集と救援活動で、ドローンの活用を実験した。

産業用ドローンで同グラウンドから約３キロ離れた神洞生涯学習センターまで飛行。その間、人を感知するサーモカメラなどの映像で上空から要救助者を捜索し位置を把握して、救助要請へとつなげた。また積載量30キロの最新大型ドローンを使い、同センターまで飲料水12リットルを時速約50キロで運搬した。いずれも自動航行で、補助者らを配置せずに飛んだ。

同社の尾関健ＣＳＲ推進本部長は「実際の災害現場ではレベル３・５の飛行経験が必要で、訓練を今後に生かしたい」と話した。

防災連携訓練は、美濃市のほか、消防や警察、民間団体などの関係機関、住民ら総勢約１２０人が参加した。ロボッツは、ドローンを用いた空撮や調査の業務、運搬なども行い、美濃市と恵那市に拠点がある。

無断複製・転載を禁じます